



競馬連合

全国競馬産業労働組合連合会

2008年(平成20年)8月8日(金) No.299発行

発行責任者/伊藤保政 編集/田村隆光

関東本部 〒300-0493 TEL/0298-85-0402

茨城県稲敷郡美浦村美駒 2500-2 関東労内

関西本部 〒520-3005 TEL/077-558-0457

滋賀県栗東市御園 1028 全馬労内

笠松競馬

笠松競馬検討会が初会合 訴訟は議論せず

2008.7.30 岐阜新聞

羽島郡笠松町の笠松競馬場の土地明け渡し訴訟で、県地方競馬組合に土地の明け渡しを命じた一審判決を受け、県が開催を提案していた「笠松競馬を検討する会」の初会合が29日夜、同町の笠松中央公民館で開かれ、組合が関係者に経営の現状を報告した。原告側の地主は欠席した。

笠松競馬の経営の見通しや将来のコストなどについて共通認識を持とうと競馬組合が設置。馬主、調教師、騎手、厩務(きゅうむ)員、従事員、地主、商工会、自治会などの代表26人がメンバー。11の地主組合のうち、原告のいる4組合は辞退した。

会合では、進行役の鈴木誠岐阜経済大教授が同訴訟については議論しない方針を示した。競馬組合はインターネット投票や場外発売の伸びで馬券発売額が増加に転じ、実質単年度収支は3年連続で1億円台の黒字を確保、一時7000万円まで減った基金は5億2000万円まで積み増したと報告。ただ、地方競馬全国協会への納付が猶予された交付金3億2000万円を2010年度から10年間で納めたり、シアター恵那の債務4億3000万円を本年度から8年間で返済する負担が見込まれるとした。

意見交換では「ナイターの開催など客に来てもらう要素と費用を示すべき」「馬の預託は企業の設備投資と同じ。3-5年の存続は打ち出して」などの指摘が出る一方、「敗訴を機に持った会合なのに訴訟に触れず、賛成者だけが集まっても意味がない」と会合の趣旨を疑問視する声もあった。次回は、8月21日に町役場で開く。

園田競馬

ゆったり観覧席 兵庫・園田競馬場がリニューアル

2008.7.30 産経新聞

改修工事を行っていた尼崎市の園田競馬場が29日、リニューアルオープンした。スタンド屋内の観覧環境を整備。有料の特別観覧席のシートを入れ替えて座席間の通路幅を広げたほか、女性専用ゾーンを設置するなどした。

工事は6月中旬から実施。2000円が必要な特別観覧席はシートをすべて新調。座席数は400から283に減ったが、座席間の通路幅を5メートルから8メートルに広げた。

事前応募が必要な招待席も拡充し、座席数を43から66に増やし、うち16席が女性専用。スタンド内に一般席としてペアシートルーム(100座席)が新設されたほか、若年層が利用しやすい飲食ゾーンを敷地内に設け、8月5日から営業を始める。

園田競馬場を運営する県競馬組合は「ゆったりと観覧できるようになった」としている。

岩手競馬

ネット好調 修正計画1.6%上回る

2008.8.5 河北新報

岩手県競馬組合は5日、本年度の4日までの発売状況を県議会常任委員会に報告した。売り上げは92億7000万円で、6月下旬に下方修正した計画値を1.6%(1億4300万円)上回った。

売り上げの内訳は水沢(奥州市)、盛岡の両競馬場とテトラック(場外馬券売り場)を合わせた自場発売が計画比0.3%減の65億500万円。他競馬で岩手競馬を発売する広域委託が3.

7%増の20億4600万円だった。インターネットは7億1900万円で14.4%増となった。前年同期比では売り上げは11.2%（11億6800万円）減。入場者はテレトラックを含め計69万8046人で7%（5万2565人）減った。

千葉英寛副管理者は収入見込みを8.0%下方修正し、経費を4億3200万円削減した経緯を踏まえ、「どんなことがあっても（本年度）黒字を達成したい」と強調した。

常任委員会では、民間委託拡大に向けてソフトウェア大手の日本ユニシス（東京）と進める委託交渉の協議状況に関する質問もあった。組合は「（ユニシス側が提案している）賞金など賞典費削減や収益保証率などで認識のずれがあり、すり合わせを行っている」と説明した。

道営競馬

レースもビールも生で 札幌・大通ビアガーデン 道営競馬を中継

2008.8.5 北海道新聞

札幌市中央区の大通公園で開催中のビアガーデン会場で5日夜、道営ホッカイドウ競馬のナイターレースが生中継され、観光客や市民らを喜ばせた。

道営競馬の応援を続けているサッポロビールが、ファン拡大を目指して初めて企画。同日旭川競馬場で行われた同社の冠レースを同時中継した。

会場は2500人が訪れ、超満員。馬券は販売されなかったが、ステージ上の大型ビジョンでレースが放映されると、来場者は熱狂。「やっぱり生はいいね」とジョッキを傾けていた。



岩手競馬

<国体に向けて>旧三条競馬場 馬術場に変身中

2008.8.6 新潟日報



国体馬術競技の特設競技場として生まれ変わる旧三条競馬場跡地。一部は今月末に行われる北信越国体で使用される＝三条市上須頃

2009年のトキめき新潟国体で、馬術競技の会場となる三条市。市は旧三条競馬場跡地（同市上須頃）を活用し、特設競技場の建設を進めている。工事が順調なことから、競技場の一部は今月下旬に開催される北信越国体でも使用され、かつて多くの競馬ファンに愛された場所が、新たなスポットとしてお目見えすることになった。

23、24日に開かれる北信越国体の馬術競技では、競技場面積の3分の1となる約8400平方メートルを使用。整備が終了した障害馬術用の馬場などを舞台に熱戦を繰り広げる。建設は当初、09年5月に同所で行われる国体リハーサル大会を目標に進めてきたが、工事が順調なことから前倒しで利用される。

現在未整備の一般向け駐車場や厩舎などは北信越国体後に工事を始め、来年3月には完成する予定。総事業費は約3億8000万円となる見込みだ。

特設競技場のほとんどは信濃川の河川敷に位置するため、整備に当たっては治水の観点から制約も多い。だが同市では、浸水のおそれがある場合は馬場の柵をすぐに撤去できる構造にするなど、障害物にならないような工夫を施している。

かつてこの場所は、2004年の7・13水害で大量に発生したごみの集積場として利用された。市国体推進室では「国体の馬術競技場として活用されることで、水害からの復興が着々と進んでいることを全国にPRしたい」と話している。